

立志会視察レポート

場 所：高知ちばさんセンター

提出者：永田起也

■第1日目：令和元年10月30日（水）

●第14回 全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

○第1部【基調講演】現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性

弁士：中島 岳志 氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

過去の自民党政治（大平内閣・田中内閣）は、保守本流の政治体制であった。その時々によってバランスを取るべく調整をおこなっていた。（小泉・安倍内閣）はリベラル派によるもの。

保守の定義とは？ 考え方とは？

人間は間違いやすい動物であり普遍的な人間である。フランス革命を指導する人々が自らの正しさを訴え、正義であることを否定することを唱えたもの。政治は60点が良い（大平正芳元総理）と唱えた。政治で100点を取った場合、異論を唱えた人を排除することになる。または、相手は負けたことで何時までも抵抗をしてくる。保守とは、根本的で大切なものを守るために、微修正を重ねる考え方。緩やかな改革、手直し、合意形成、永遠の微調整を行なうこと。自分と異なる意見に対してこれまでの様々な事例に繋がる事が自分自身にもあったことを感じながら拝聴をした。

○第2部【パネルディスカッション】議会活性化のための船中八策

・コーディネーター：坪井 ゆづる 氏「朝日新聞論説委員」

・パネリスト：高部 正男 氏「市町村職員中央研修所学長」

横田 響子 氏「㈱コラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授」

古川 康造 氏「高松丸亀町商店街振興組合理事長」

田鍋 剛 氏「高知市議会議長」

高部氏…市議会の現状認識、選挙制度、労働法制の見直し、議員兼職規制など課題等早急に検討すべき事項などを述べた。当市においては平成22年から議会改革を推進してきたが、議員の労働法や地方議員の身分等の法整備については、まだまだ先の話であると感じる。現在は改革ランキングにおいても上位であるが、全国的にはまだ思うように進められない所もあると感じた。当市においても幾度となく提案に対して合意形成が取れずに足踏みの施策があるが、先の講演で歴史的財産に対する永遠の微調整という言葉のもと進めていきたい。

横田氏…議会に必要なこととして、1. 20年度の住民は幸せか 2. やりっぱなしになっていないか（数字とともにPDCA） 3. 若手、女性の参加は、巻き込んで街を活性化する策はの三点を上げた。議会改革の具体的なアイデア、1. 中長期的視点で街の目指す方向を議論人口減を前提に 2. ガチンコ会議を多様な人材で実施 3. 経験の機会提供をあげた。中長期視点で町を目指す方向を議論では、未来カルテという地域の状況に関する将来推計のデータを作成してくれるサイトの紹介。ガチンコ会議を多様な人材で実施では、ITの有効活用で活発な議論が行われる（平均年齢を約40歳に設定し女性を半数以上入れる）。

古川氏…全国的に有名である「高松丸亀町まちづくり戦略」について。過去に視察にお邪魔させていただいた。住民をベースにしたデベロッパーによるメインストリート再生計画。商店街全体のイメージから各街区にそれぞれ適した業種を入れ込んでいる。土地の所有と利用の分離が実現し、再生を果たした少ない成功例である。議会に改革は何故必要か。議員は地域代表であるという少し古い意見。全国から視察にくる議員はよく勉強しているという。

■第2日目：令和元年10月31日（木）

●第14回 全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

○【課題討議】議会活性化のための船中八策

- ・コーディネーター：坪井 ゆづる 氏「朝日新聞論説委員」
- ・事例報告：滝沢 一成 氏「上越市議会議員」 久坂 くにえ 氏「鎌倉市議会議長」
小林 雄二 氏「周南市議会議長」

滝沢氏…議会の見える化について。上越市議会ではあらゆる方法で情報を開示している。行政監視機能を果たした例として、委員会の資料がかなり詳細になっている。状態目標、数値目標、具体的な取り組み内容などがネットで公開。ホワイトボードミーティングを導入し、声の大きい議員の声が通りがちな会議をすべての人の意見をフラットにすることができる。若者と女性を取り込むことが議会改革につながる。議会モニター制度も設けていてアンケートモニター300人とコアモニター30人で構成されている。

久坂氏…女性議員の現状の視点を報告。自らが妊娠して出産となったときに様々な問題があった。当時は、会議規則に出産が欠席事由として規定してなく、産前産後期間の定めもなかった。また、議会も夜9時まで当たり前の時間で、子育てと議員の両立はとても厳しいものであった。現在は、女性活躍推進法施行により、男女の個性を発揮し家庭生活との円滑な両立が図れるようにはなってきた。休暇制度について明文化されているかと言う点。会議規則は自ら変えられるので会議規則の改正が必要だ。当知立市議会は、議会改革において会議規則が改定してある。住民の声を活かすこととして、各常任委員会がテーマを決めて意見交換を行なっている。監視機能として、超党派による視察や所管事務調査の積極的な実施により予算の減額修正に取り組んだ。観光客に対するマナーに関する条例に市民からの声を政策提言につなげた。

小林氏…議会基本条例に捉われない議会運営。公開と対話で形より実にごだわってきた。議会基本条例に縛られ、柔軟な対応ができない可能性があるために制定しない選択をした。

行政監視機能の向上、次世代を見据えた議論をするための未来カルテ作成・アプリの活用、データを踏まえた議論、多様性の担保、自治法96条の議決事件の拡大、労働環境、情報公開を徹底、討議・議員同士の積極的な協議、以上フォーラムによる船中八策によるものが掲げられた。今回のパネルディスカッション等で、それぞれの立場で話をされました部分で、市民から議会が何をしているか、また見えにくい点などまだまだ多く、地方議会としての果たすべき役割など明確な基準が全国的には定まっていない。地方議会の身分や労働環境、年金制度においても、国の制度も変えないととの意見もあるが、地方が変わらなければと強く思う。